

**樺美智子** 学生運動家。在学中に安保闘争に参加，唯一の犠牲者となってシンボル化した。

かんばみちこ

**日中戦争始**・1937 = 東京に生れる。社会学者樺俊雄の長女。母は光子。

**日米開戦**・1941 = 4歳：

**敗戦**・1945 = 8歳：

新憲法公布・1946 = **9歳**：

**独立回復**・1951 = 14歳：

\_中学・高校・予備校時代から，社会主義・共産主義に関心を持ち，

**55年体制始**・1955 = **18歳**：

なべ底不況・1957 = 20歳：\*東京大学に入学。文学部国史学科に進み，自治会委員となる。原水爆実験反対闘争などに取組み，日本共産党に入党。のち，日本共産党から離脱した共産主義者同盟(ブント)創設と同時に参加。当時，改廃期限を迎える日米安保条約問題は全国民の関心をひきつけており，

美智子妃・1959 = 22歳：\*ブントとともに，高揚してきた安保改定反対闘争に全力で取組み，

**安保闘争**・1960 = 23歳：\*岸首相ら新安保調印全権団出発阻止のため羽田空港ロビー占拠事件を起し逮捕される。国会デモ，さらに国会突入闘争に参加し，南門で警察機動隊に圧死させられた。

この死は人々に衝撃を与え，美智子は60年安保闘争の象徴となり，死の3日後の6月18日の国会周辺は30万人のデモでうめつくされた。新安保条約は自然成立したが，内閣は総辞職した。遺稿集「人しれず微笑まん」「友よ」がある。